

かみあしき人の白きあやのきぬきたる。ま。か。み。た。る。かみにあふひつけたる。  
〔松屋筆記百六〕ち。れ。髪。を。ち。う。が。し。ら。と。い。ふ

中明寺百首に

人心髪すぢほどもゆがむなよちうがしらの鶯の巢はあし

梳髮

〔九條殿遺誠〕先起稱屬星名號。○中次服粥次梳頭。梳之。日一度。梳。

〔吾妻鏡〕治承四年九月十九日戊辰陸奥鎮守府前將軍從五位下平朝臣良將男將門虜領東國企

叛逆之昔藤原秀郷僞稱可列門客之由入彼陣之處將門喜悅之餘不肆所梳之髮即引入烏帽子謁  
之秀郷見其輕骨存可誅罰也趣退出如本意獲其首云云

亂髮

〔倭訓栞前編四十五〕おちかみ 落髮の義源氏に髪のおちと見え本草に亂髮と見えたり今人髮

結はざるを亂髮と稱せり拾遺集に朝なくけづればつもる落髮の亂れて物をおもふ比かな

〔和漢三才圖會支體十二〕亂髮 血餘 人退 俗云髮乃乎知

亂髮者乃梳櫛下髮也燒灰爲藥

氣味溫若微 治欬嗽五淋大小便不通小兒驚癇吐血衄血及諸血病補陰小兒重舌欲死者傳舌下佳

鼻血不止者吹入于鼻立止永不發男用女髮、女用男髮

〔日本書紀三十三〕持統三十一朱鳥元年十月庚午賜死皇子大津於譯語田舍時二十四妃皇女山邊クシヒシ被髮ケシヒシ徒跳奔赴

殉焉見者皆歔歔

〔太平記三十一〕笛吹峠軍事

上杉民部大輔ガ兵ニ長尾彈正根津小次郎トテ大力ノ剛者アリ今日ノ合戰ニ打負ヌル事身一  
ノ耻辱也ト思ケレバ紛レテ敵ノ陣ヘ馳入將軍ヲ討奉ラント相謀テ二人乍ラ俄ニ二引兩ノ笠  
符ヲ著替ヘ人ニ見知レジト長尾ハ亂髮ヲ顔ヘ颯ト振り懸ケ根津ハ刀ヲ以テ己ガ額ヲ突切テ